

なんすん



農業リスクに対応

アグリセーフティネットに関する包括連携協定を締結

当JAは7月29日、なんすん地区管内の沼津市・裾野市・長泉町・清水町の首長と、アグリセーフティネットに関する包括連携協定を締結しました。行政と連携し、自然災害や気候変動など農業者の経営努力では避けられないさまざまな農業リスクに対応します。

本年度の農業経営収入保険の加入保険料を補助する仕組みは沼津市・裾野市・長泉町・JAで構築。加入促進の取り組みを始めています。資材価格高騰に対する支援でも、肥料の購入費用支援や化学肥料から堆肥・有機質肥料への転換に向けた支援も進めています。

鈴木正三組合長は「持続可能な農業を維持するため、市町と強力なパートナーシップで支援し、JA全体に取り組みを広げたい」と話しました。



協定を結ぶ鈴木組合長(右)と各首長

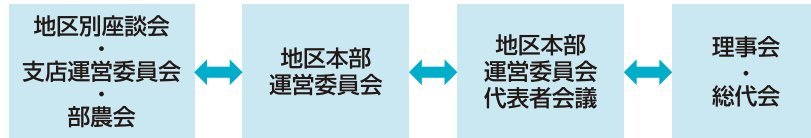
8地区

組合員の意思反映に向けて

第1回地区本部運営委員会代表者会議開く



各地区本部管内から出た意見や要望などに関して協議



各地区の話題をお届け

ふじ伊豆 トピックス

FUJI IZU TOPICS

当JAは合併により管内が広域化していますが、組合員の皆さまの声を伺いその意思を反映させながら事業活動を進めていくために、運営委員会を設置しています。

運営委員会の最高組織となる地区本部運営委員会代表者会議を8月19日、沼津市で初開催しました。8地区から各2人の代表者と鈴木正三組合長をはじめJA役職員の約50人が出席。協議事項では、会長になんすん地区の青木陽一さんと副会長にあいら伊豆地区・小川淳一郎さんと富士地区・村松孝規さんが選任されました。

その他、各地区組合員の皆さまから寄せられた農業振興や販売・購買事業に関することなど計78のご意見に対する対応方針を報告しました。次回は11月に開催されます。

三島函南



箱根温泉で「三島赤紫蘇の湯」提供

コロナ禍による在庫を有効活用 特産PR

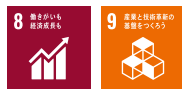
神奈川県足柄下郡箱根町の日帰り温泉「箱根小涌園元湯 森の湯」で8月22日から9月30日まで、三島函南地区産の赤シソを使った「三島赤紫蘇の湯」が提供されました。これはコロナ禍で需要が減り、出荷先で在庫となった同地区の赤シソを有効活用したもので、食品ロスを減らし地元の旬の恵みを広くPRしました。

実施に先立ち、当JAのSNSでも同温泉の割引クーポンを配布して集客に協力し、地元農産物の魅力発信に努めました。



「三島赤紫蘇の湯」を確認するJA職員

伊豆太陽



生産技術の知識向上へ

丸わさび共販委員会青年部がワサビ沢視察

丸わさび共販委員会青年部は7月8日、地域のワサビ生産技術の知識向上を目指して初の視察研修を行い、部員5人が参加しました。

伊豆市にある県伊豆農業研究センターわさび生産技術科の小高宏樹主任研究員から、ワサビ種子繁殖性品種「静系19号」について説明を受けた後、伊豆市の試験用ワサビ沢や松崎町のワサビ沢を視察しました。参加した部員は「栽培の過程が数値化されていて分かりやすかった。今後も研修していきたい」と話しました。



伊豆市の試験用ワサビ沢を確認する部員

8地区

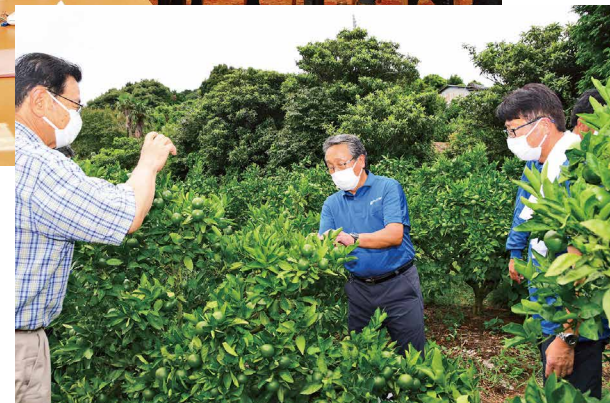
合併メリット創出へ 産地構想を協議

イチゴやミカンなど主要品目でサミット開催

当JAは合併初年度として各主要品目でサミットを開き、各地区の生産者や藤沼和明常務をはじめJA役職員、関係機関職員が出席して産地振興策を協議しています。8地区の産地が1つになって産地構想を創り、その実現に向けて取り組んでいきます。

8月12日には、柑橘(かんきつ)サミットを、24日には販売高トップのイチゴサミットを沼津市で開催。柑橘では、振興品種の絞り込みや集出荷場の効率化を検討し、イチゴでは新規就農者を全地区で受け入れる体制や、一元的な分荷出荷体制の構築などを目指していきます。

9月にはトマトサミットを開き、その他ワサビサミットなど順次開催します。



イチゴサミットには6地区の生産者やJA役職員ら39人が出席(上)・柑橘サミットでは西浦みかんの園地巡回も実施(下)



富士宮



エスパルス下敷きで児童にSDGs エスパルス×富士宮市×当JAら地元企業が寄贈

富士宮市とファミリータウンパートナーシップ協定を結ぶサッカーJ1の清水エスパルスは、当JA富士宮地区本部など地元企業3社と協働し、「2022エスパルス オリジナル下敷き」を作成しました。下敷きには選手一覧やSDGsを考えるコーナーが描かれ、富士宮市内の小学生6,700人にプレゼントされました。

7月8日の寄贈式では、深澤俊光地区本部長、協働企業が同席し、エスパルスの山室晋也代表取締役から池谷眞徳教育長に目録が手渡され、SDGs推進を誓いました。



SDGsをPRする山室社長(中央)や深澤地区本部長(左)ら

富士宮



農地バンク事業120%達成 行政と情報共有で奏功

富士宮地区営農販売課は、自己改革の一環で、富士宮市農業委員会、同市農業政策課と農地貸借に関する情報を共有しながら「農地バンク(農地中間管理機構)事業」に力を入れています。令和3年度貸付面積は102.4ヘクタールで、前年対比120%を達成しました。

県農業振興公社は「県内でも有数の活動実績で、関係機関の理想的な連携がとれている」と評価。JA担当職員は「今後も連携を強化し、遊休農地などの解消、農地の有効活用で支援したい」と話しました。



農地で推進委員らと現地確認をするJA職員(左)

御殿場



正組合員宅へ野菜苗を無料配布 「野菜づくり運動」を実施

御殿場地区本部は「野菜づくり運動」として、8月15日から同地区の正組合員宅へキャベツとブロッコリーの苗を5本ずつ無料配布しました。

同運動は、組合員が野菜栽培を始めるきっかけや「ファーマーズ御殿場」への出荷促進、地産地消、食の安全・安心の実践を目的に平成21年から行っています。

配布する野菜苗の播種から鉢上げ、管理、配布までを全て御殿場地区の職員が行い、本年度は正組合員宅3,704戸へ配布しました。



JA職員(左)から野菜苗を受け取る正組合員

伊豆の国



ニューファーマーの就農支援 JAと県・市が連携して多方面から支援

伊豆の国地区本部は、県の「がんばる新農業人支援事業」と連携して新規就農者の受け入れを進めています。本年度は新たにイチゴで2人、ミニトマト1人の計3人が実践研修を終え、同地区管内に就農。現在は新たに3人が先進農家の下で研修に励んでいます。

7月12日にはニューファーマー地域連絡会を開き、研修修了証書の授与や新規研修生の紹介、意見交換会を実施。本多隆幸地区本部長は「研修受入農家や行政と連携して支援していきたい」と話しました。



研修生3人(後列)に研修修了証書を授与

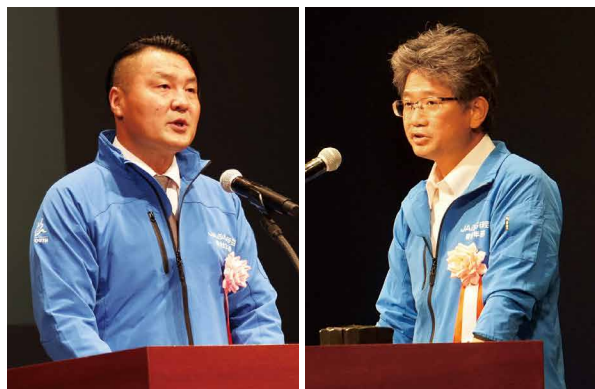
8地区



平野さん・土井さんが青年の主張発表 県JA青年組織活動実績・JA青年の主張発表大会

第71回静岡県JA青年組織活動実績・JA青年の主張発表大会が7月29日、静岡市で開かれました。当JAから、青年担い手理事である、三島函南地区の平野光直さんと富士宮地区の土井貴さんが代表で出場しました。

平野さんは「三島の農業 いもリーダー ひらの」と題しSNSを通じたビジネスや人とのつながりを発表。土井さんは「おっさんのボヤキ」と題し、組織を通じて人を知る力などを養い、利他主義の意識で困難な課題にも共に立ち向かう組織の良さを発表しました。



土井さん(左)と平野さん(右)が出場

富士



進物用の梨の出荷統一へ 生育順調 400トンの出荷見込む

富士地区梨部会は8月2日、進物用の梨の目ぞろえ会を富士営農経済センターで開きました。箱詰めの際に注意すべき熟度や傷、病害虫の被害痕などを再確認した他、早生品種「甘ひびき」の紹介や試食も行いました。

今期は開花が平年並みで台風などもなく順調に生育。「幸水」と「豊水」を合わせて約400トンの出荷を見込んでいます。鈴木史浩会長は「お客さまに満足していただけるよう、みんなで出荷基準を守ろう」と呼びかけました。



実際に梨を目視しながら品質を確認する部会員

あいら伊豆



特産ダイダイ・アイランドルビーPR 高校生がスイーツ開発 いで湯っこ市場で販売

伊東商業高校3年生の生徒が8月20日、地元特産ダイダイやアイランドルビーを使って開発したスイーツを直売所「いで湯っこ市場」で販売しました。生徒たちは店頭で立ち、試食を配って商品をPRしました。

販売したのは、「アイランドルビー」を使ったタルト「アイルケーキ」と、昨年度同校の先輩たちが開発した「いとまけチャップ」、フロンティア部によるダイダイジェラート「G-dai(じだい)」の3品。各50個限定で用意した商品は午前中で完売となりました。



「アイルケーキ」を試食する子ども(右)

あいら伊豆



当JAのSDGs活動ポスター登場 伊豆急行のSDGsトレイン車内に掲示

あいら伊豆地区本部が推奨している「ナギナタガヤ草生栽培」の取り組みを紹介するポスターが、伊豆急行の「SDGsトレイン〜ツナグデンシャ〜」の車内に掲示されています。

SDGsトレインとは、伊豆半島の地域で行われている持続可能な取り組みをポスターにして「ストーリー化・見える化」し、車両内に掲示して紹介する企画で、当JAの他20件の取り組みが紹介されています。同車両は熱海～下田間を7月から1年以上の運行を予定しています。



あいら伊豆地区のSDGs活動ポスターと車内掲示を見る職員